

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 4 月 4 日作成)

委員会名	木質構造動的設計法小委員会	主 査 名：宮澤健二
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：鈴木秀三
設 置 期 間	2004 年 4 月 ～ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	本委員会は、近年の動的耐震の研究成果に基づいた木質構造の合理的な耐震設計法を作成することを目的とする。2004年度～2005年は、WGを併設して木造住宅の簡易耐震設計法を取りまとめる。2007年度は、耐震設計法を取りまとめる。	
委員構成 (委員名(所属))	宮澤健二(工学院大)、山口修由(建築研究所)、河合直人(建築研究所)、大橋好光(熊本県立大)、後藤正美(金沢工大)、入江康隆(宇都宮大)、坂田弘安(東工大)、五十田博(信大)、腰原幹雄(東大)、中尾方仁(横浜国大)、木林長仁(竹中)、花里利一(大成)、綿引誠(住友林業) / WGの主な参加者：村上雅英(近大)、米沢友里(三井ホーム)	
設置 WG (WG 名：目的)	設置WG：木造住宅簡易耐震設計WG 目 的：2階建て木造住宅を対象とし、近年の研究成果を反映した簡易かつ合理的な耐震設計法を作成することを目的とする。	
2004 年度予算	150,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	木造住宅簡易耐震設計WGとの合同委員会を以下の日程で全8回開催した。 5月7日(13名)、6月25日(14名)、8月10日(12名)、9月17日(9名)、 10月28日(6名)、12月1日(5名)、1月28日(12名)、2月28日(8名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>木造建築物に関しては、法的な基準がある他に、関係団体により各工法毎に設計法(指針)等が作成されている。また、設計法の種類も、許容応力度設計法、限界耐力計算法や耐震診断法などがあり、これらの既存の設計規準類について調査と比較検討を行い、今後の方針を確定した。</p> <p>昨年度までに収集したデータを基にして、木造住宅用の簡易耐震設計法に関して、耐力壁の水平加力実験から得られた荷重変形曲線のモデル化に関する検討を重ね、改良モデルとの比較検討を行った。また、設計用の地震力の算定について、検討を行った。以上の検討を踏まえ、簡易耐震設計法の枠組みについて検討した。</p> <p>その他、木造建築物用の地震被害調査シートの作成に関して検討を行い、10月の新潟県中越地震においては、暫定版を学会ホームページに掲載した。新潟県中越地震における木造建築物の被害について、情報を収集し検討を行った。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>2004年度までに既往の耐震設計法のレビューを概ね完了し、今後の方針をより明確にすることが出来た。</p> <p>簡易耐震設計法に関しては、水平耐力要素の新しい評価の方法について、概ね合意が得られた。2005年度中にWGによる原稿作成を終了し、併せて小委員会による査読作業を開始する。</p> <p>耐震設計法については、2007年度末を目標に、簡易耐震設計法から耐震設計法へのステップアップのために、動的挙動の考慮、精緻化、設計自由度の拡大を目指す。</p>
その他評価すべき事項	<p>震害調査シートの作成については、2004年度に暫定版を作成した。2005年度中の完成を目指す。新潟県中越地震等による木造建築物の地震被害についても、情報収集を継続する。</p>